



信太の森ニュース

No. 39
2021年8月18日

文責 田丸八郎



7月22日、信太山丘陵里山自然公園の西側エリアが暫定開園されました。

2011年9月、「信太山丘陵に里山自然公園を」とする請願が和泉市議会で採択されました。それから間もなく10年になるうとしています。

「里山自然公園」については、検討委員会、ワークショップで検討された「基本方針」に基づき「公園協議会」により令和6年の西エリア第一次開園を目指して保全活動が続けられています。この7月22日から西エリアの一部を暫定開園することになりました。保全活動の参加者が少ないことから一部を開園することで来園者に保全活動への参加を促すことを狙ったものだと思いますが、公園西エリアについては車椅子対応の主園路をつくるためアラカシ林の伐採や園路工事、スキ草

原の復元工事などで車両の出入りもあり、公園利用者の安全面が気になるところです。

暫定開園された園路にはロープを張り巡らせ、立ち入り禁止区域と虫取りなどができる立入可能なエリアを設けていますが、園路の一部ではネザサ、クズ、ノイバラなど繁殖力の強い植物の根の駆除がまだまだ必要であり、その工事も今後行われます。

7月から公園を貫通する道路拡幅計画地で埋蔵文化財の発掘調査も始まりました。西エリアの第一次開園を3年後に控え、計画通りに進んでいますが、「基本方針」が決まってから6年になりますが、東エリアの開園時期がまだ決まっていません。2、3年以内にはその開園時期を示して欲しいものです。

NPO法人 信太の森FANクラブ

事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202

電話 0725-45-7357 090-1225-9159

E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

公園協議会の動きと活動



西エリアの一部暫定開園式典

前掲のとおり公園協議会では、一部を開園し、市民に参加を呼掛けながら公園づくりを行っていくこととなりますが、それはいいとしても、参加者不足が問題であれば、これまでの里山講座修了者で現在参加していない人たちへの参加呼びかけが必要ではないかと思えます。

なぜ参加できないのか。保全活動が面白くないといったことがないのかどうか。面白くないければ、どうすれば活動に参加して貰えるのかなど、そうしたことをもう少し掘り下げて考えてみる必要がないのかなど協議会の中で考えていかなければならないと思えます。

暫定開園に先立つ7月17日に公園協議会の総会がありました。

今年度は道路拡幅工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査と道路設定、道路沿いに残すアラカシの選定、アラカシ林を通る主園路の設定と伐採するアラカシの選定などが行われ、東エリアゲート近くに保全活動用の簡易トイレが設置される予定です。

総会では、東エリアの小湿地について、サギソウなど希少種の危機的減少とヨシなど大型侵入植物繁殖による湿地の危機的状況を報告し、「基本方針」が決まってから5年が経過していますが、東エリアの正式開園が何時になるのかまだ決まっていないこと。遅くとも西エリア第一次開園までに次の計画目標を示すよう要望しました。

気になる動き<パート2>

公園予定地・東エリアに隣接する場所にコンテナ置き場の気になる動きについて前号でお知らせしました。

整地されたその場所には、周囲を低いフェンスで囲み、その中にネットで囲った低いゲージ内にバッティングマシンが設置されており、ゲージ内ではバッティングの練習、ゲージの外ではピッチングやキャッチボールができるように整地されており、中学生くらいの少年たちが時折練習に来ています。

しかし、公園内の園路(予定)に車や自転車が走るのは困りもの。和泉市としても代替え用地を探しているものと思えますが、なんとか早めに解決して欲しいものです。

和泉市上下水道事業部を訪問

和泉市、泉大津市、高石市三市で構成していた泉北水道企業団が三月末で解散したことは前号でお知らせしました。

解散後については、和泉市の上下水道事業部が窓口となることから5月に大阪みどりのトラスト協会と訪問することになっていました。新型コロナの影響で先に延び、7月27日にトラスト協会の飯野氏と訪問しました。

惣ヶ池湿地の保全と活用については、当面和泉市水道事業部にトラスト協会から「使用許可申請書」を提出することになっており、この日は、21年前に惣ヶ池湿地として整備された経緯とこれまでの保全活動、FANクラブが関わってきた経緯と絶滅危惧種が他の湿地に比べて多く、惣ヶ池湿地にしかない植物なども紹介し、現在整備しつつある新しい木道について、今年度も整備計画中有であることを説明してきました。

湿地植物と悪戦苦闘

ヒレタゴボウという植物をご存知でしょうか。ゴボウというからには食べられそうに思えま

すが、ゴボウのように棍棒状の根がある訳ではありません。地上部が食べられるかどうかは分かりませんが、ひげ根が沢山あり水辺を好み、四弁の黄色い花を咲かせるアカバナ科の植物で、別名アメリカミズキンバイとも言われる外来植物す。



ヒレ
タゴ
ボウ
花
径
2.5
cm
ほ
ど

花としては綺麗な花で惣ヶ池湿地に数年前から見られるようになりました。

綺麗な花だと咲くままにしていたところ、昨年の夏、池の淵で繁殖して池が見えないほど大きく成長しました。真夏にも拘わらず悪戦苦闘の末除去したのですが、とき既に遅く種が熟していて除去作業中に落ちてしまいました。「来年はえらいなことになりそうだ」と危惧していたところ、それが的中。

今年6月、スイレン池が干上がり始めると田植えをしたかのように植物が沢山生え出しました。その殆どがヒレタゴボウ。

意を決して7月2日に小雨降る中、会員5名で池に入り堆積した泥の除去とヒレタゴボウの抜き取り作業を行いました。



雨に濡れながらヒレタゴボウの抜取作業

それでもまだ池周辺には小さなものが残っていて、それが成長して花を付ける段階で抜

き取るしかありません。

取り残した小さなものが7月下旬頃に花を付けはじめたため8月上旬までに3回、お盆明けに1回、池の中に入って除去作業を行いました。小さなものがまだ残っています。

信太山丘陵には他にも小さな湿地が点在しており、希少な生物の棲息環境を守っていますが、その内の一つで泥沼のような池があります。そこには、数年前までは二種の植物が記録されていたのですが、そこに誰かがコナギというミズアオイ科の植物を植えたため、それが繁殖して池を覆う程になりました。

この池も今年度4回、4人が入って除去作業を行い、お盆の15日に3人で入り、一応完了しましたが、まだまだそれらの植物との苦闘は続きそうです。

今年度はこの二種の湿地植物に翻弄され悪戦苦闘しましたが、惣ヶ池湿地では、15年ほど前からアメリカセンダングサという外来種の除去を毎年行ってきました。今ではかなり少なくなりましたが、それでも毎年30本以上は抜き取っています。今では保全活動に参加する女性のみなさんと岩川さんがそれを見つけ次第除去してくれます。

昨年の初夏には、渡辺さんが一人で10日ばかり湿地に入りガマの除去をしてくださいました。ガマが増え、その立ち枯れが景観を悪くしていたもので、それが除去され今年度は惣ヶ池湿地の景観が随分よくなりました。



ガマとアメリカセンダングサの抜取作業

惣ヶ池湿地周辺で野鳥が繁殖

春から夏は野鳥の繁殖期です。これまでの野鳥観察で雛鳥と遭遇することは希でした。今シーズン遭遇した雛鳥はいつになく多く

8種類。カワセミ、エナガ、シジュウカラ、コゲラ、ウグイス、ヤマガラ、ムクドリ、ホオジロです。

惣ヶ池湿地にやってきたのはカワセミの親子。採餌訓練なのでしょう。親鳥が池に飛び込む様子を学んでいたのですね。



カワセミの親子（左：雛鳥 右：親）

エナガの雛の群れとは今シーズン2回遭遇。成鳥とは違い、新しい世界へ飛び出した不安そうな戸惑い顔をして餌を探していました。

コゲラの雛は初めて観察。木の突き方がぎこちない感じがしました。

雛鳥とは別に繁殖行動が観られたのがオオタカとキビタキの2種でした。



雛鳥が待つ巣へ餌を運ぶキビタキ

キビタキは親鳥が餌の毛虫を運んでいたののでその近くで繁殖しているはずですが。

オオタカは3月下旬頃から惣ヶ池湿地の近くで親鳥の鳴声を聴くようになり、巣作りをしているようでしたが、6月中旬頃を境に今までの鳴声とは違ったケー、ケーと雛鳥らしい鳴き声に変わり、巣離れできなかつたのが7月末頃まで鳴いていました。

惣ヶ池湿地では2010年にオオタカが巣

作りをしたものの人が近寄り過ぎて巣を放棄。2016年にはヒクイナという珍しい鳥の繁殖が確認されています。

FANクラブ写真と絵画展開催

6月22日～7月17日まで信太の森ふるさと館に於いて第4回目となる信太の森FANクラブ会員による「写真と絵画展」を開催しました。オリンピックではありませんが、2017年7月から4年振りとなる開催です。

出展者は11名。写真は9名で野鳥、植物、昆虫、動物、風景の23点、絵画は2名で水彩9点、油絵が6点が出展されました。



夏の行事・新型コロナで実施できず

数年前の夏は、涼しい所で観察会をと会員に呼びかけて始めたのが和泉市の最高峰、三国山での観察会。

それが基となり毎夏の行事として豊橋市の葦毛湿原、能勢の地黄湿地見学を実施していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で昨年に続き今年も実施できませんでした。当クラブの定期観察会もしかりで、多くのイベントが中止・延期を儀なくされています。

こうした小さな催しでも気を遣うのに緊急事態宣言中にオリンピックを開催するとは、人の命が疎かにされているとしか思えません。その後も感染拡大が続いています。各自が感染予防に努めていくしかありません。一日も早い収束を願いたいものです。